

# 令和6年度 学力向上プランの作成・活用について ～日常的・組織的な『授業改善』による学力向上のために～

義務教育課

## 1 目的

「学力向上プラン」を作成し、1年間を通じた検証改善サイクルの中で活用することを通して、全職員が主体的に学習に取り組む態度等を含めた学力向上の意識を高め、一体感をもって日常的・組織的な授業改善を推進・徹底できるようにする。

## 2 本年度改善の重点事項

児童生徒の主体的に学習に取り組む態度等を含めた学力の状況と教員の学習指導の課題を明らかにし、改善の方向性を明確にして義務教育9年間を通して持続的に学力を伸長させるため、日常的・組織的な授業改善を中核とした学力向上策を推進するにあたり、主に以下の点を改善の重点事項としている。

については、重点事項を位置付け、学校の実態に応じ、創意工夫した学力向上プランになるよう留意すること。

### ○ 学力層（四分位層）に着目した短期目標の設定

【視点1－②：成果指標】

### ○ ICT活用、「書く活動」、「非認知的能力の育成」に係る課題分析と取組、指標の設定

【視点1－①：課題、要因】、【視点2：授業づくり】

※ 視点1－①に示す課題及び要因を整理する際は、授業チェックリスト及び授業評価アンケート等を活用すること

※ 視点1－①と視点2には、ICT活用、「書く活動」、「主体的に学習に取り組む態度等向上の取組」に係る内容のうち、1つ以上選択し記入すること（ただし、上記以外の内容について付加して記入してもよい）

## 3 学力向上検証改善の取組の年間イメージ（例）



#### 4 学力向上プランの作成・改善のスケジュール（例）（前年度～7月末頃まで）

期日	手順	内容	留意点
(前年度) 1月 ～ 3月	分析・ 計画・ 準備・ 作成 具体化 共通理解	◇ 小中合同研修で本年度の総括及び次年度の方向性を確認する。  ◇ 次年度のプランを作成する。 ※ 学力向上プランの作成は【別紙様式例2】または各教育事務所から示された様式例等があればそれを参照	○ 「全国調査」、「県調査」、「授業評価アンケート」及び「授業チェックリスト」による評価等をもとにして、自校の学力実態や指導の状況等を学力向上プランの視点に沿って分析する。 ○ 分析結果をもとに、次の点を踏まえながら次年度のプランを検討・作成する。 ・小中9年間で育てたい姿等を全職員で共通確認する。 ・学校や学年として「どの内容に重点を置いて、どのような指導を行うか」、「すべての授業で共通して取り組むことは何か」等を具体化する。など
4月	授業診断・ 周知	1 前年度末に作成したプランに基づき授業を診断する。  2 前年度末に作成したプランをもとに、本年度のプランを完成させ、確認（周知）する。	○ 「授業評価アンケート」及び「授業チェックリスト」を活用し、管理職等による授業診断を行う。 ○ 管理職等は、教室訪問等を通じて取組の進捗状況を常に把握する。 ○ 校内研修等を通じて、全職員でプランの内容を確認（周知）する。
4/18 (木)	準備	3 全国学力・学習状況調査実施後、児童生徒の解答用紙の写しをとる。 4 正答例、解説資料を用意する。	○ 解答用紙の写しは適切に保管すること。  ○ 国立教育政策研究所HPから「解説資料」（正答例を含む。）をダウンロードする。
4/22 (月)		◇ 義務教育課内において「学力の定着度把握に係る問題（以下「指定問題」という。）」を検討する。	◆ 指定問題一覧を義務教育課から各学校に送付（※1） ※ 指定問題一覧表を各市町村（学校組合）教育委員会を通じて、22日に電子データで送付（予定）
4月下旬 ～ 5月中旬	採点・ 授業診断	5 指定問題を採点する。 (※2)	○ 校内研修の時間等を年間計画に位置付け、時間確保の上で採点し、全教員で結果の分析等を行う。 ※ 指定問題以外の問題を採点してもよい。
5/7 (火)	提出	◇ <u>学力向上プランを提出する。</u>	○ <u>所管の市町村（学校組合）教育委員会へ学力向上プランを提出する。</u>
採点以降	分析	6 自校の課題や対象児童生徒の課題の改善状況を把握するために、調査結果の分析を行う。	<分析の視点> ・どのような問題（内容）に課題があるか。【各教科及び各問題の正答率から】 ・どのようなつまずきがあるか。【誤答の状況から】 ・どのような力や授業が求められているか。【問題・解説資料から】
採点結果の 要因分析後	改善・ 活用	7 学習指導に当たっての改善点を確認する。 8 プランを改善する。  9 日常の授業で実践する。	○ 指定問題の分析結果及び学力向上に関する重点目標、児童生徒、教師の実態に基づいて改善する。 ※ 全職員がプラン改善に参画するための校内研修を位置付けるなどの工夫をする。
6月以降	検討		◆ 学力向上コーディネーター実践交流会等における学力向上プランを使った協議（各教育事務所）
7月末	分析	10 学力層（四分位層）の分析を行う。	◆ 福岡県の学力層（四分位層）のカッティングポイント及び各層の割合（県100の算出方法含む）を義務教育課から各市町村（学校組合）教育委員会を通じて電子データで送付（予定）

※1 これまでの全国学力・学習状況調査や福岡県学力調査の結果から明らかになった県内全体の課題を踏まえ、令和6年度の国語、算数・数学の調査問題の設問の中から、各教科5問程度を県教育委員会が選定する。

※2 指定問題の採点結果は、自校の課題や対象児童生徒の課題の改善状況を把握するための協議資料として校内で活用する。